

長岡崇徳大学は未来社会でも持続的に発展する

長岡崇徳大学学長 新原 皓一

長岡崇徳大学は、中越から首都圏地域の広範な地域で医療福祉事業を展開する崇徳厚生事業団の熱い支援を受け、基礎的・先進的な知識と実践的な技術を習得し、多様に変化する医療福祉ニーズに応えうる若き人材を育み、未来を背負う人材として世に送り出してきました。

私は、医療看護分野の人材育成に関する教育研究に関しては、股関節等の人工骨や人工歯根等のバイオ材料及び人の感性を制御可能な感触センサーの研究・開発以外には経験が皆無でありますので、この分野に関しては教職員や学生及び事業団の皆様との密な接触を通して学び、今後の医学・看護学等の発展に関して、加えて地域包括ケアシステムや心と体の動きのデジタル化を通しての新しい看護・福祉分野の提案・研究・実用化に関して共同研究し、この分野に新しい未来を切り拓きたいと考えます。この分野で外部支援が必要な場合は今まで構築した国内外の人的ネットワークを駆使して最適な協力者を探したいと考えます。

一方、大学の経営運営、特に学生数充足の課題は少子化・人口減・超高齢化等の日本の社会構造の歪に起因する課題であるので、教職員の従来への活動の更なる努力や崇徳厚生事業団の協力だけでは解決が難しい問題であると思われます。この日本の社会構造の歪に起因する影響は今後更に加速すると思われます。この大学運営に関する課題を解決する為には、関係者が心を合わせて一体となって諦めることなく前に前にと進まざるを得ません。長岡崇徳大学と同じ分野で活躍している県内の大学と一緒にになって解決する必要に迫られることも有りえると思われます。

この大学の経営運営の難問題は従来プロセスの大胆な見直しで部分的には「短期に」に解決可能と信じますが、完全な解決には長期的な取り組みが必要であることは言うまでも有りません。この完全解決には長岡崇徳大学や崇徳厚生事業団の関係者と数か月にわたり夜を徹して話し合い、今までの「思い・確信・常識・タブー」に踏み込んだ激論を通してしか解決する道を見い出すことは出来ないと思われます。また、仲間だけの意見交換だけでなく、組織や業種が異なる外部の先達との連携が必要になるとも思われます。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である」と言うダーウインの種の保存則を信じて進めば長岡崇徳大学は永遠に輝く組織へと変わりえると信じます。

私の人生哲学は「全ての人を愛する、嫌いな人は創らない：3z(愛)」です。